

証券コード：7157



IFRS17号「保険契約」 勉強会（第1回）

LIFENET

LIFENET INSURANCE COMPANY

ライフネット生命保険株式会社

2022年7月5日

限定事項

- ご説明する情報は、生命保険会社に係る法定会計および国際財務報告基準（IFRS）に関する当社の現段階における解釈と見解に基づいています。
- 業界他社、その他の関係者は異なる解釈と見解を持つ可能性があります。
- 本資料では、理解の容易性のため、一部、実際の会計基準等と異なる表現を使用しています。

目次

1. 本勉強会について
 2. 今回お伝えしたいこと
 3. IFRS導入の背景・目的
 4. 法定会計による生命保険損益の特徴
 5. 法定会計の損益計算書構成
 6. IFRS17号 保険負債
 7. IFRS17号の損益のポイント
 8. CSMによる収益認識
 9. 保険獲得CFによる繰延ベ
 10. IFRSの損益計算書構成
 11. 適切な期間業績とは
 12. IFRS17号の適用スケジュール
- Appendix

1. 本勉強会について

■ 目的

当社の2023年度のIFRSの任意適用に先立ち、
IFRS17号の重要なポイントについて説明

➡ 新たな財務諸表・財務分析のご説明に円滑に移行

(注) 当社の具体的な業績予想等についてご説明するものではありません

■ スケジュール（案）

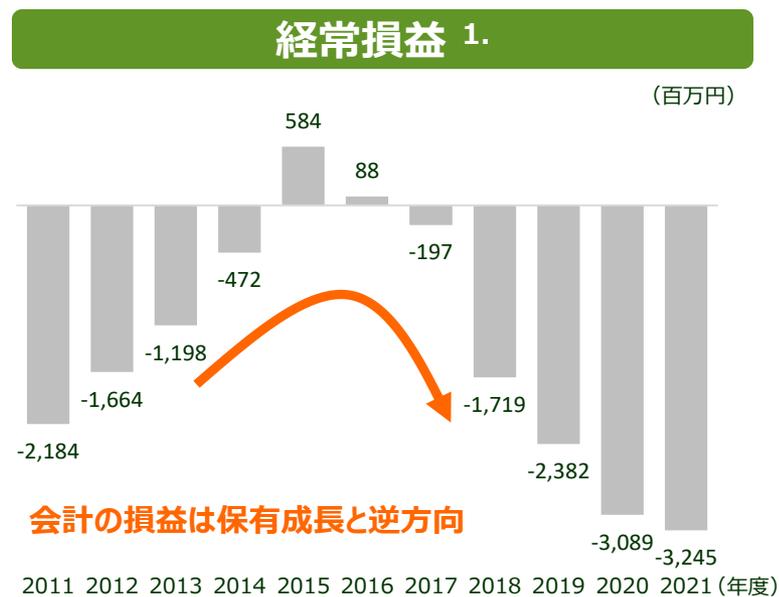
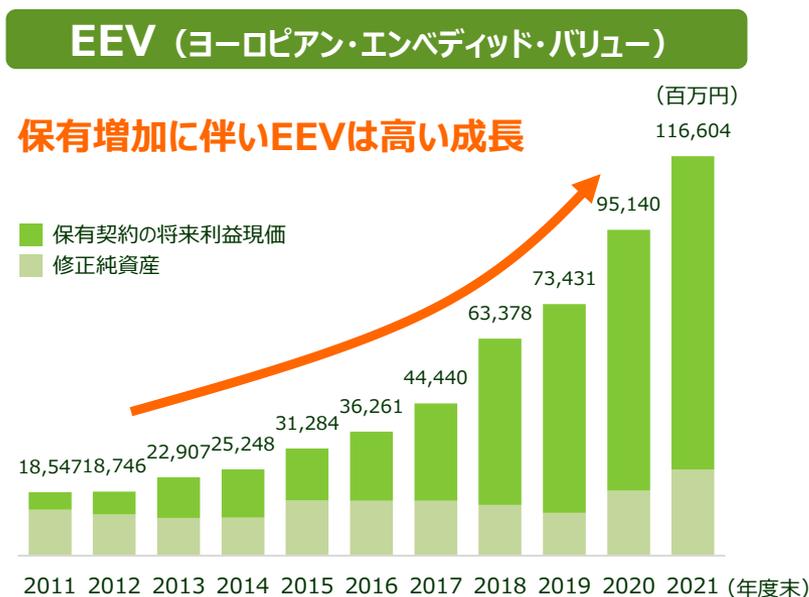
	テーマ（案）	開催時期
第1回	IFRS17号の基礎 <ul style="list-style-type: none">IFRS導入の背景・意義IFRS17号 損益のポイント・CSM（契約サービスマージン）の重要性	2022年7月5日
第2回	IFRS17号における財務分析 <ul style="list-style-type: none">利益・財務指標・CSMの増減等の分析	2022年10月頃
第3回	IFRS17号 アップデート <ul style="list-style-type: none">IFRS17号の動向、Q&A等	2023年1月頃

2. 今回お伝えしたいこと

- 当社の期間業績・収益の実態をより適切に反映できる
- CSM（契約サービスマージン）の増大が将来の利益の成長に繋がる
- IFRS17号の適用後も、資本規制と剰余金の配当は法定会計に準ずる

3. IFRS導入の背景・目的

- 保有契約の潜在価値を表すEEVは高い成長を示す一方、収入と費用のミスマッチにより法定会計上、その実態がわかりにくい



- IFRS17号の導入により、当社の期間業績をより適切に表し、国際的に比較可能性が高い財務情報を提供する
- 資本規制と剰余金の配当はIFRS適用後も法定会計に準ずる

1. 保険業法第113条繰延資産を考慮する前の経常利益

4. 法定会計による生命保険損益の特徴

(1) 新契約費用

- 繰延べができない



(2) 責任準備金

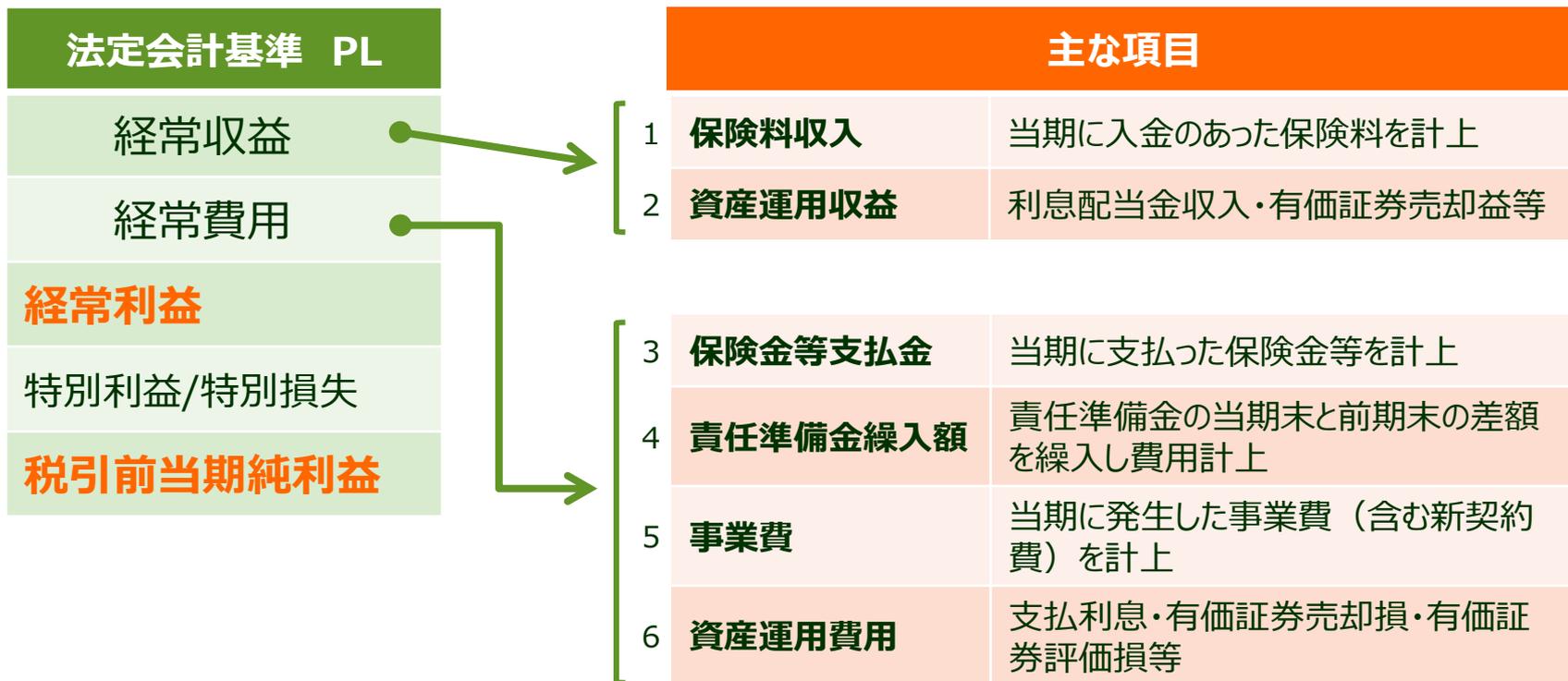
- 契約者保護のため
保守的に計算
積立負担：初期大、後期小
- 契約時の計算基礎率（予定死亡率、予定利率など）が**固定**

- 会社が成長しているときに利益を押し下げる
- 契約以後の実績が負債に反映されない

1. 契約の管理や保険金・給付金の支払いにかかる費用など

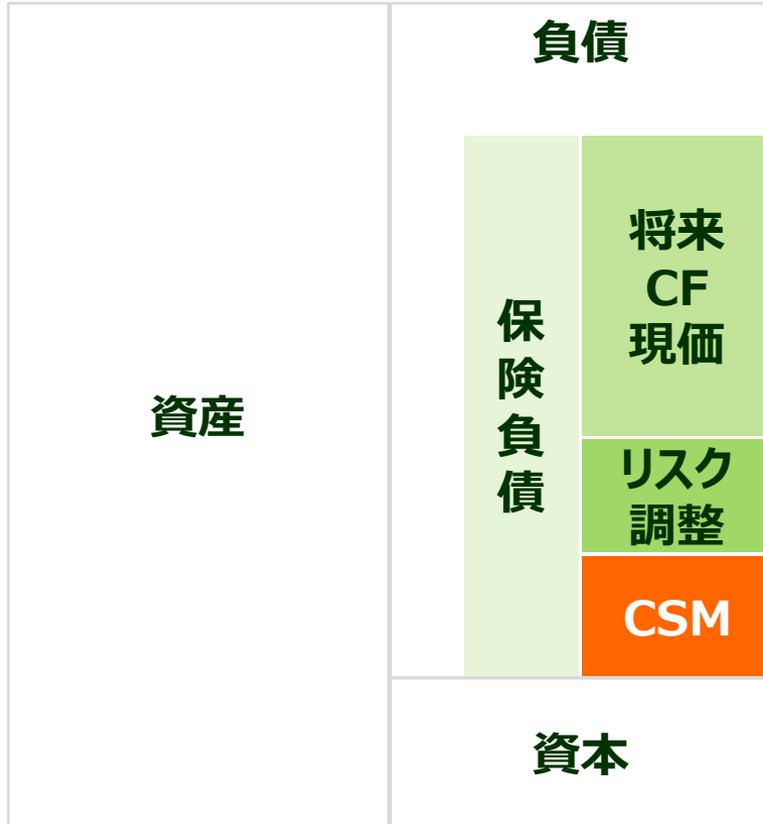
5. 法定会計の損益計算書構成

- 保険料の全額を収益計上、将来への積立分が責任準備金繰入額として費用計上
- 最近の契約ボリュームが大きいほど、責任準備金繰入額と事業費の負担が大きい
- 利益の源泉がわかりにくく、PLのみでは分析が困難



6. IFRS17号 保険負債

IFRS 貸借対照表



※上の図はIFRS17号の一般モデルに対する説明です

保険負債の3つの構成部分

- **将来CF現価：**
将来の支出（保険金等）の現価から将来の収入（保険料）の現価を控除した金額
- **リスク調整：**
将来CFの不確実性への備え
- **CSM：**
「将来利益を表す負債」で、保険期間の経過とともに償却され利益となる

IFRS17号の移行時（またはIFRSの導入時）には、原則として、保有契約に対して、新契約時に遡って保険負債が計算される

7. IFRS17号の損益のポイント

IFRS PL構成

保険収益

保険サービス費用

① 保険サービス損益

投資収益

保険金融費用

② 金融損益

その他損益

税引前当期純利益

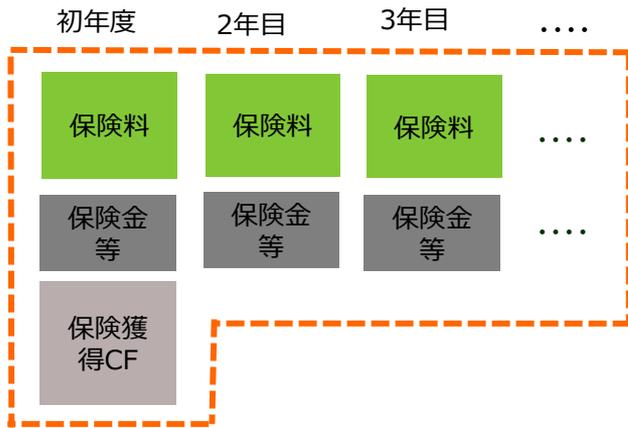
- ① 保険サービス損益と
② 金融損益で表示される
- ① 保険サービス損益の分解
 - 保険金等の予想と実績の差
 - リスク調整リリース
 - CSM償却
- CSMの増大が将来の利益成長のために重要



8. CSMによる収益認識

新契約 将来の予想CF

経験に基づく最善前提で計算



CSM

現在価値



CSMを保険期間にわたり収益として配分（償却）



※ CSMが負になる場合は即時に損失認識となります

CSMの増大（= 将来利益の成長）に重要なこと

- 収益性の高い新契約の獲得
- 保険金・事業費の良好な経験に基づく前提アップデート

9. 保険獲得CFによる繰延ベ



LIFENET



■ 保険契約群団の獲得増加に直接起因するコスト

- 新契約の増加によって増えているコスト
- コストを増加させることによって新契約が増加するコスト

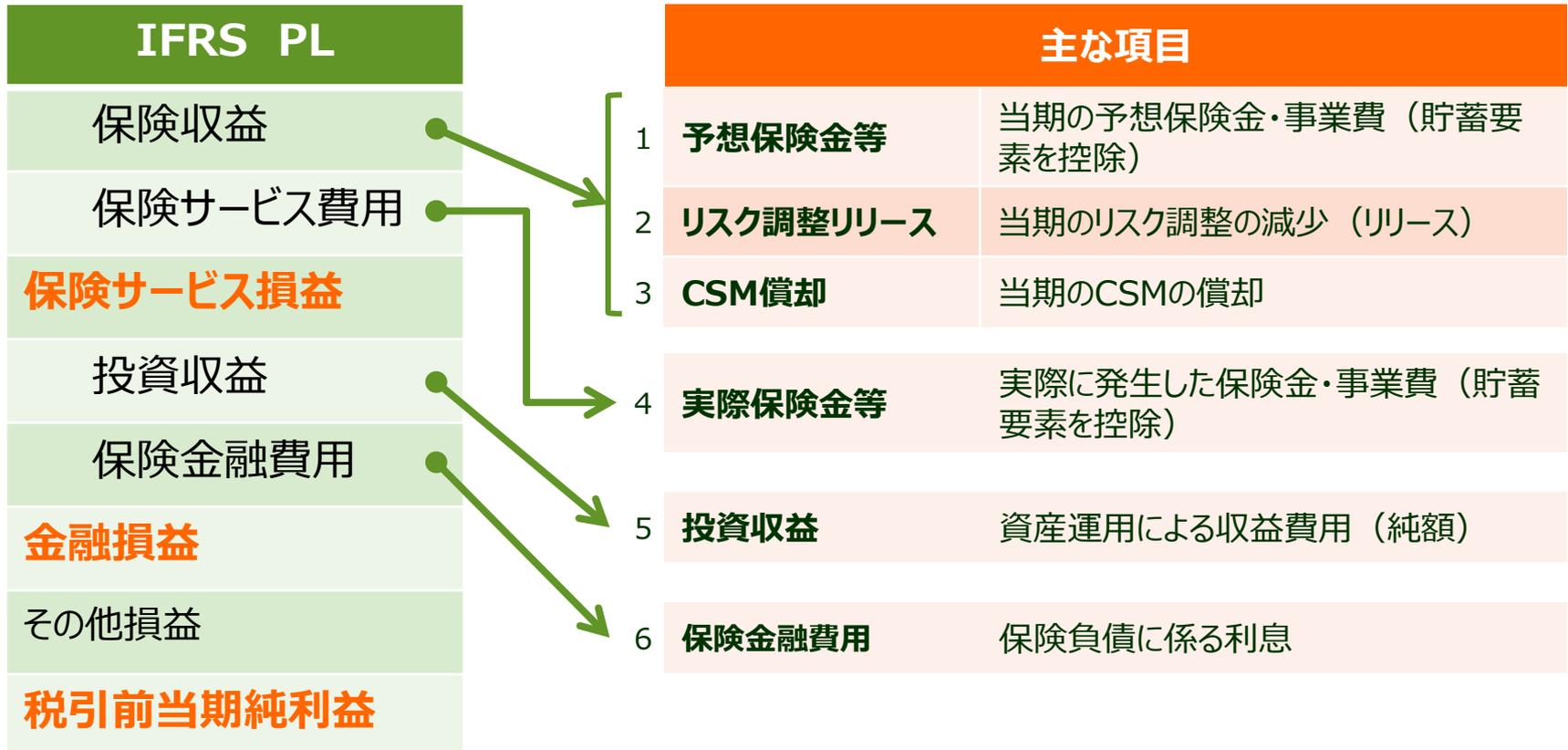
具体例

実際に保険獲得CFに該当するかどうかは、個別具体的な判断が必要であることに留意

- ✓ 募集手数料（営業職員給与、代理店手数料等）
- ✓ 新契約獲得・締結・引受の業務に係る人件費・物件費
- ✓ 保険商品に関する広告費用等

10. IFRSの損益計算書構成

- 保険収益は保険料そのものではなく保険負債からのリリース
- 保険サービス損益は、保険金等の予想と実際の差額、リスク調整リリース、CSM償却に分解できる
- 保険サービス損益と金融損益は利益の源泉に対応し分析しやすい



11. 適切な期間業績とは

■ 会計基準により重視される業績の観点が異なる

	IFRS17号	法定会計	EV 新契約価値
重視される業績の観点	保有契約の維持に応じた収益計上	健全性を第一義とした財政状態の確保	新契約がもたらす将来利益の潜在的価値



- IFRS17号では、保有契約の維持（保障責任の履行）に応じて収益が計上され、**期間業績としての適切性が高い**
- 期間業績への仲介項目となる**CSMの理解が重要**となる

12. IFRS17号の適用スケジュール



※第2回のIFRS勉強会は、2022年10月頃に予定しています

補足資料



LIFENET

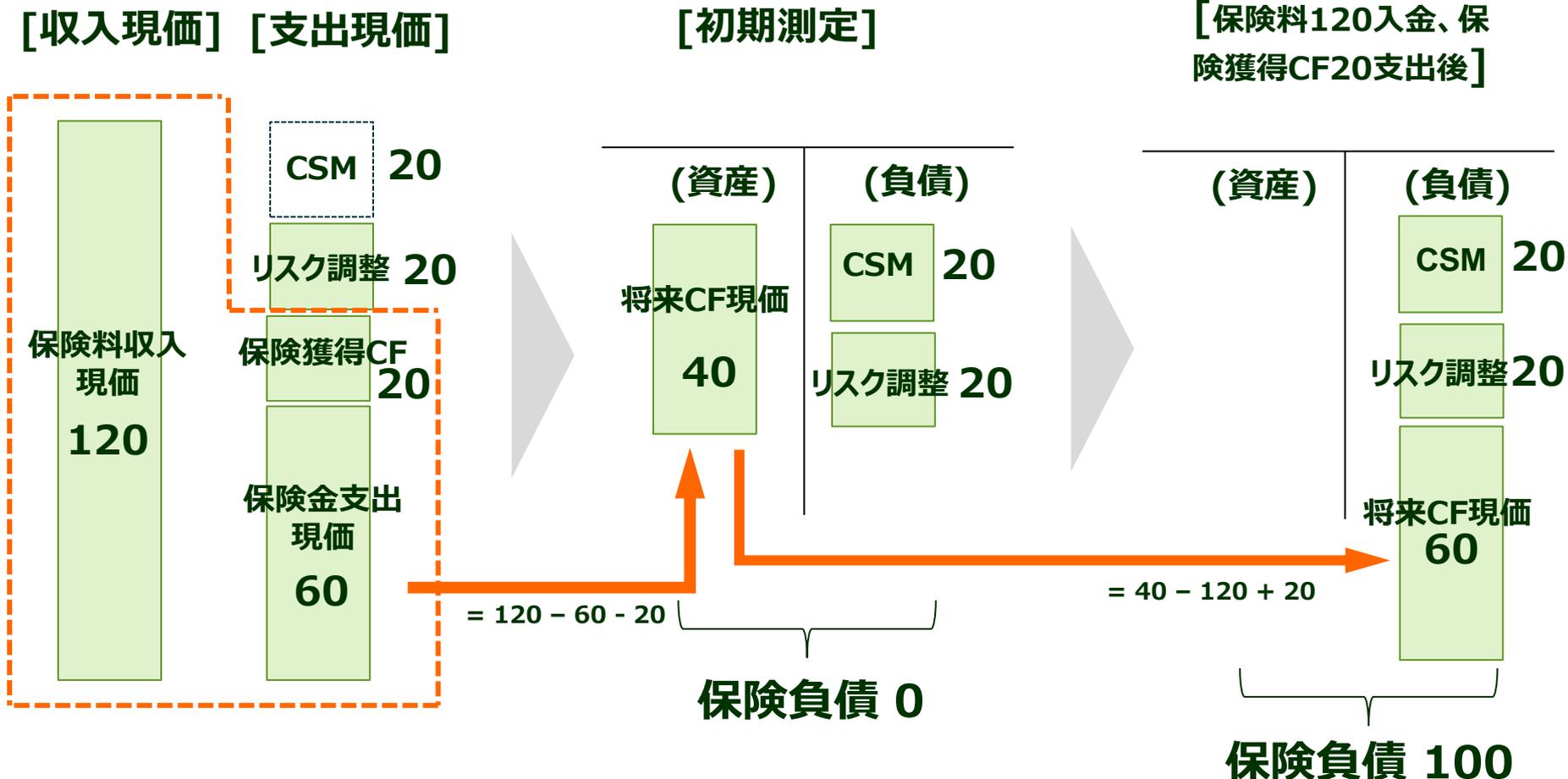
LIFENET INSURANCE COMPANY

IFRS17号 保険負債（当初認識）

当初認識

(例) 保険料一時払契約（保険料120）

数値は例示

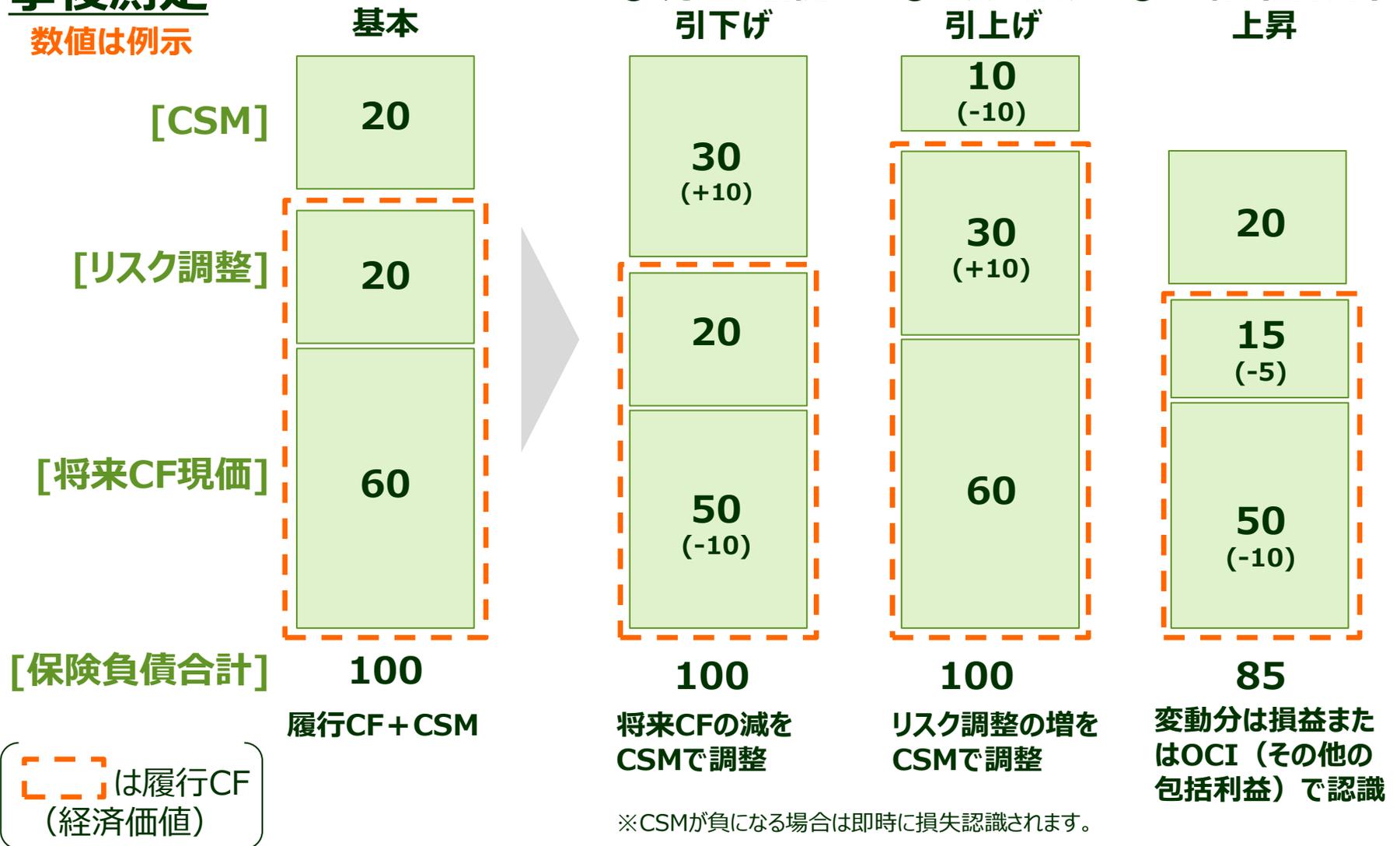


※ CSMが負になる場合は即時に損失認識されます

IFRS17号 保険負債（事後測定）

事後測定

数値は例示



IFRS17号（保険負債）の日本基準（責任準備金）との比較



項目	IFRS17号 保険負債	日本基準 責任準備金
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> 将来CFの現在価値の測定と保険サービスの提供に基づく収益の認識 	<ul style="list-style-type: none"> 将来における債務の履行に備え、保険会社の健全性の維持、保険契約者の保護の観点から評価
計算方法	<ul style="list-style-type: none"> 現在の前提によって計算し、前提変更（割引率以外）の影響はCSMで調整して将来に配分 	<ul style="list-style-type: none"> 計算式と計算基礎率によるフォーミュラ計算（ロックイン）
安全割増	<ul style="list-style-type: none"> 将来CFの不確実性への備えとしてリスク調整を計上 最善前提およびリスク調整を超える保険料のなかのマーヅンはCSMに計上 	<ul style="list-style-type: none"> 計算基礎率のなかに適切なマーヅンを持たせる 通常の予測を超える損失に備えて危険準備金を保持
新契約費の扱い	<ul style="list-style-type: none"> 保険負債のなかで繰り延べて将来に配分 	<ul style="list-style-type: none"> 支出時の費用として計上

IFRS17号のEVとの比較

項目	IFRS17号	EV
目的	<ul style="list-style-type: none"> 保険負債の測定と収益の配分 	<ul style="list-style-type: none"> 潜在価値の評価
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 保険期間に見込まれる利益をCSMに計上して将来に配分 	<ul style="list-style-type: none"> 保険期間に見込まれる利益を新契約価値として計上
前提変更 (割引率以外)	<ul style="list-style-type: none"> 前提変更の影響をただちに損益に計上せず、CSMに調整して将来に配分 	<ul style="list-style-type: none"> 前提変更の影響は保有契約価値の増減として反映される
割引率の変更	<ul style="list-style-type: none"> 保険負債の評価に反映させ、影響額は損益またはOCIに計上 	<ul style="list-style-type: none"> 将来利益の割引に反映させ、影響額は将来利益現価の増減として反映される
前提と実績の差異	<ul style="list-style-type: none"> 当期の損益となる 	<ul style="list-style-type: none"> 当期の修正純資産の増減として反映される
リスクの解放	<ul style="list-style-type: none"> 時の経過に伴うリスク調整の減少は収益として認識される 	<ul style="list-style-type: none"> 時の経過に伴うヘッジ不能リスクの減少は、将来利益現価の割り戻しとして修正純資産の増加となる